



市瀬文夫が出征直前まで使っていた絵筆ほか

無言館

遺された
絵画からの
メッセージ

生きて帰ってきたら、
この絵の続きを
描くから。
日高安典の言葉

2021. 4.10 (土) ~ 6.6 (日)

彼らの生きた証を見てほしいー。
戦争と平和を、身近に感じることのできる展覧会

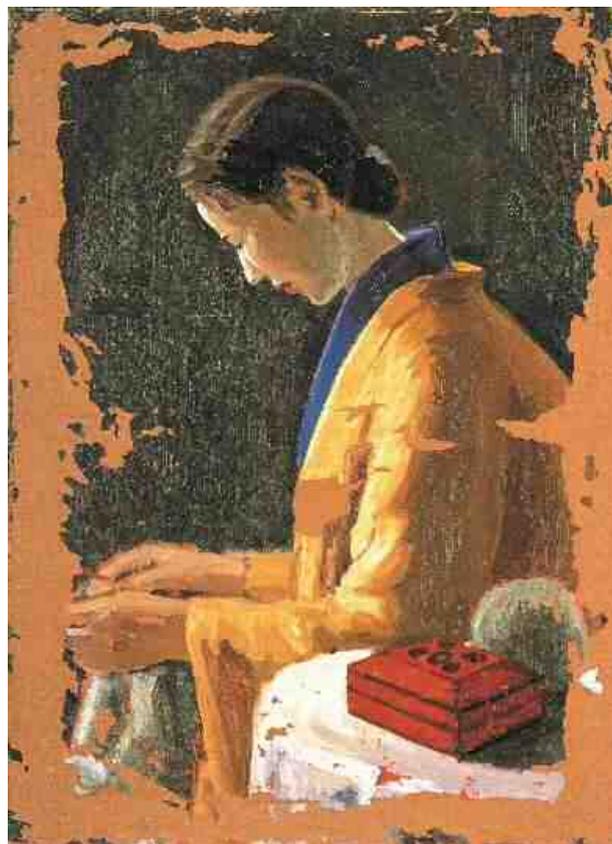
戦没画学生の絵画を全国から集め、展示する長野県の美術館「無言館」の収蔵品から、望郷・家族・自我・恋・夢の5つのテーマを切り口に、約130点を紹介します。彼らが、束の間の青春にキャンバスに描いた親しい人の姿や場所、憧れや理想をご覧ください。当館所蔵品から、新潟市出身の戦没画家、加藤一也^{いちや}、佐藤清三郎、金子孝信も特集します。

むごんかん 「無言館」とは？

「無言館」は、1997年、長野県上田市に設立された美術館です。美術の道を志しながら、その半ばで戦死・戦病死した画学生たちの遺作を展示しています。作品を通じて、彼らの声なき声に耳を傾け、生きた証に触れる場所です。

美術学校時代の同級生たちを戦争で失い、自らも出征経験を持つ画家の野見山 暁治^{ぎょうじ}氏の意志を継ぎ、作家で美術評論家の窪島誠一郎^{くぼしませいちろう}氏が館主となって、各地の遺族から作品を預かってきました。

国内唯一の戦没画学生の慰霊に捧げる美術館には、今日も、全国から多くの人々が訪れます。



① 興梠武 《編みものする婦人》 無言館蔵

本展のみどころ ①

戦争と平和を「身近に感じる」

学びざかり、遊びざかり、働きざかり。本展に並ぶ画家たちは、戦争によって絵筆を奪われるまで、美術の道を志す 10~30 代の若者でした。彼らの多くが描いたのは、愛しい妻や恋人、自分を育んだ家族、そして懐かしい思い出の地といった題材です。

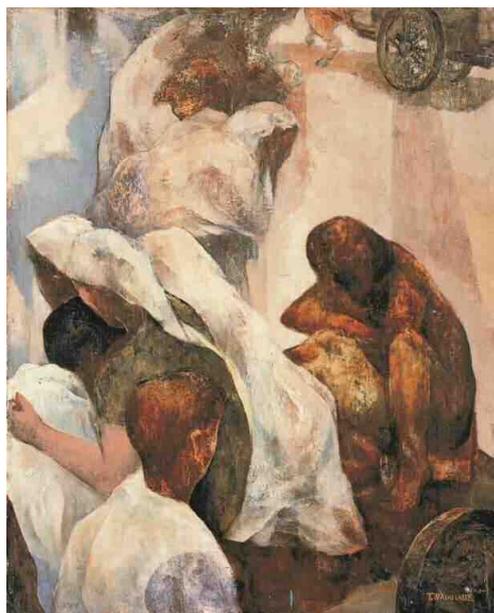
これらの絵には、「完成度」で言えば未熟さも見られます。しかし、いずれの画面にも満ちる「若いエネルギー」と「ひたむきさ」は、時を超え、いまを生きる私たちの心に直に響いてくることでしょう。

戦後 75 年。「戦争と平和」というテーマに向き合うのは決してたやすいことではありませんが、作品から自ずと感じ、身近にとらえることのできる展覧会です。

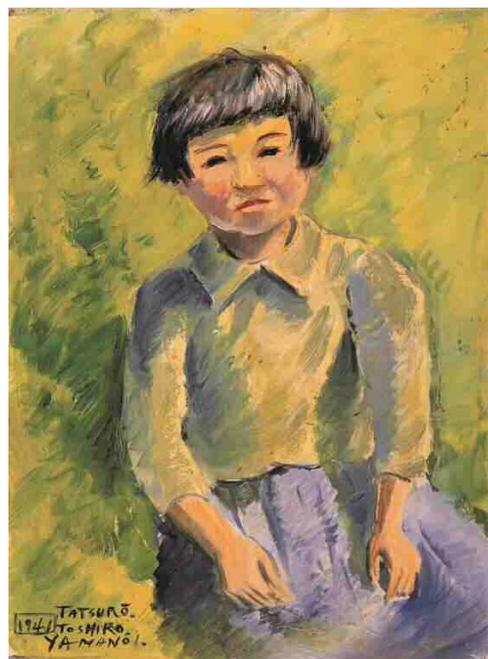
本展のみどころ ②

新潟出身の戦没画学生たち

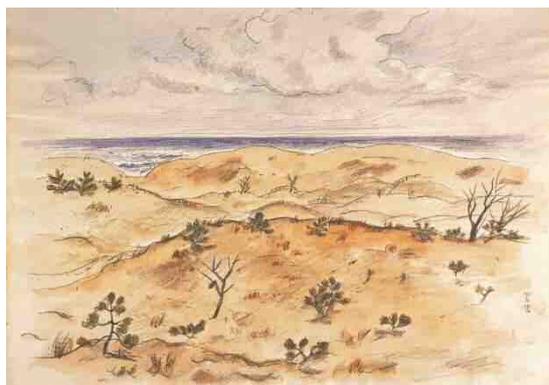
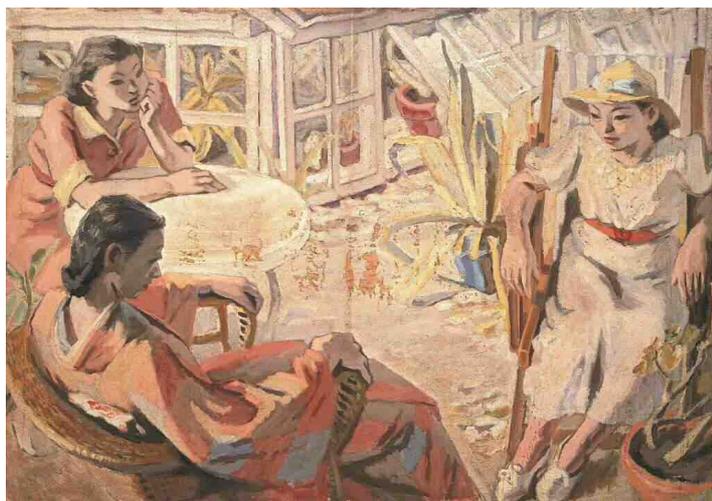
無言館の収蔵品から、鵜頭盛次（見附市出身）、^{うのずもりじ}本儀信（新潟市出身）、^{もとぎしん}堀井正四（柏崎市出身）といった、地元ではほとんど紹介されてこなかった画家たちが「里帰り」します。また、新潟市美術館の所蔵品から、新潟市出身の加藤一也^{いちや}、佐藤清三郎、金子孝信も特集展示します。



② 渡辺武 《人々》 1941年 無言館蔵



③ 山之井龍朗・俊朗合作 《少女》
1941年 無言館蔵



④ (左) 市瀬文夫 《温室の前》 無言館蔵
⑤ (右) 前田美千雄 《風景(四月四日)》
無言館蔵

基本情報

展覧会名	無言館 一遺 ^{のり} された絵画からのメッセージー
会期	2021年4月10日(土)～6月6日(日) 51日間
会場	新潟市美術館 企画展示室 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9 TEL 025-223-1622 FAX 025-228-3051 www.ncam.jp E-MAIL museum@city.niigata.lg.jp www.facebook.com/ncam.tsunagaru/
休館日	月曜日(ただし5月3日は開館) ※GW中は無休
開館時間	午前9時30分～午後6時 ※観覧券販売は閉館30分前まで
観覧料	一般1,000円(800円)、大学生・高校生800円(600円)、中学生以下無料 ※()内は団体(20名以上)・リピーター割引料金* *本展観覧券の半券提示で本展2回目は団体割引 ※会期中は、本展の観覧券で「コレクション展」もご観覧いただけます ※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方および一部の介助者は無料(受付でご提示下さい)
主催	新潟市美術館、U×新潟テレビ21、朝日新聞社
企画協力	無言館
お問合せ先	新潟市美術館(担当:星野立子、関戸(せきど)愛莉) 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町 5191-9 TEL:025-223-1622 FAX:025-228-3051 E-mail:museum@city.niigata.lg.jp

関連イベント

◆ 記念講演会

『無言館』のこと
一戦没画学生が遺したもの
講師：窪島誠一郎氏(無言館館主)

5月5日(水・祝)午後2時～3時30分

会場：新潟市美術館 2F 講堂

※事前申込制(定員50名)、聴講無料

往復はがきに、参加人数(1通につき2名まで)、参加者全員の氏名・住所・電話番号・「講演会」を明記の上、お申込みください。

4月24日(土)必着。応募多数の場合は抽選。

◆ 担当学芸員による 作品解説会

4月29日(木・祝)

5月23日(日)

各日午後2時～(30分程度)

会場：新潟市美術館 2F 講堂

※事前申込不要(定員50名)、
聴講無料



無言館
(外観)

★ 本リリースに掲載の画像①～⑤については、すべてデータでの提供が可能です。(ただし、ご使用は本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。)掲載される場合は、画像に記したクレジットを必ず明記してください。

無言館 —遺された絵画からのメッセージ—

取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆記事掲載時の作品写真（画像データ）及び、読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX でお申し込みください。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、1部ご恵与ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス (データ送付先)	
ご媒体名	
取材予定日	月 日 時頃 ・ 取材予定なし
取材スタッフ	計 名 (内カメラクルー 名)
掲載・放映予定日	月 日
チケットプレゼント希望	組 枚 ※1媒体につき10組20名様まで
通信欄 ※画像を希望する場合は、該当する画像の番号を記してください。	